地球環境問題を
解決するための、
商品・技術・サービスの
創造に努めます。

イケ・サンパークから はじまる「循環」

活動時期　2021 年 4 月～現在継続中

活動場所　としまみどりの防災公園
愛称：イケ・サンパーク（東京都豊島区）

コミュニティガーデンは、公園管理事務所の裏にある小さな畑です。ここでは、季節に応じて様々な植物を育てています。月に 1 回開催しているコミュニティガーデン活動は「自分たちが食べるものを自分たちの手でつくる」土育・食育に繋がるワークショップです。また、畑の一角に設置された「コンポスト」では、公園内の飲食店から発生する野菜クズ・コーヒーがらなどをもとに堆肥を生産しています。完成した堆肥は、公園内の植栽へ撒いたり、さらには公園周辺の商業施設へご提供しています。

活動の目的
「循環」を公園のコンセプトに掲げるイケ・サンパーク、それを体現する場所としてコミュニティガーデンは整備されました。きっかけは「サステナブルなコンポスト運用をやってみたい！」という園内の飲食店オーナーシェフの一言からはじまりました。

取り組み・成果
いつも公園を利用している方々に参加していただきたいという思いから、年 10 回開催しているコミュニティガーデン活動は園内掲示物のみで募集をしています。おかげ様で毎度満員御礼の人気イベントになっています。また、コンポスト堆肥はサンシャインシティ様や中池袋公園様の施設内でご活用いただいています。

今後の目標・課題
コミュニティガーデンやコンポストの最終目標は地域住民による自主運営です。主役はあくまで豊島区に住む人たちであり、公園管理に携わる指定管理者として、地域の魅力を支えられる存在なりたいと考えています。また、現在は、堆肥を使って生産したエシカル苗（花苗）を通した地域連携にも挑戦中です！

1 コンポストに野菜クズを入れるオーナーシェフ、堆肥をかき混ぜるところまで行います。
2 コミュニティガーデンの活動を楽しむ参加者さんの様子です。お子様にも多くご参加いただいています！
3 堆肥は定期的にコンポストから出し、天日干しや不純物を取り除く作業をします。
4 サンシャインシティ様へコンポスト堆肥をお渡しました。　5 サンシャインシティ様より、堆肥を使って水族館のバックヤードで育てた野菜をご提供いただきました。
6 堆肥を使って生産したエシカル苗（花苗）は園内や公園周辺の商業施設で活用されています。

1 ようこそ日本国出展へ。門かぶりの現地植物デロニクスがお出迎え。　2 bio－wall に苔を加え日本国を演出する壁面緑化を設置。
3 日除けの下には緑地部分で野筋を造り砂利で州浜、蓬による雲海を表現。日本の文化を海外に向けて発信。

Green Gifts for Well-being Doha, Qatar 2023年ドーハ国際園芸博覧会

活動時期　2023 年 9 月～ 2024 年 3 月

活動場所　カタール国 ドーハ アルビッダパーク

ドーハ国際園芸博覧会は建国 50 周年となる年に開催されています。総合プロデュースを務める株式会社ロスフィーと JV を組み、「2023 年ドーハ国際園芸博覧会日本国出展屋外整備業務委託」を契約して、その施工を行いました。現地の材料を用いて日本の技術を駆使し作庭しています。竹垣や野筋、延段といった日本庭園要素と、現代的な技術としてグリーバルの壁面緑化 bio-wall に苔を加え Japanese-green-wall を提案し設置しました。

活動の目的
気候変動著しく、砂漠化が進むカタールの過酷な環境に対して、日本の伝統・文化と現代の都市緑化の技術や手法を用いたデザインとなっており、持続可能な庭園を目指しています。日除けや窪による冷却効果と緑地の環境によって、酷暑においても滞在し鑑賞できる空間を世界の方々に提案しています。

取り組み・成果
今回は日本造園組合連合会に所属する株式会社今田作庭園と日比谷アメニスの協力会みどり会加入の株式会社植利とともに施工を行いました。2002 オランダフロリアード国際園芸博覧会から 20 年ぶりの参加となり、異国の地で日本品質の庭園を施工し来国者に文化と技術を届けることができました。

今後の目標・課題
4 年後には横浜で GREEN×EXPO2027 が開催されます。1990 年に開催された大阪花博以来の日本で行われる A1 クラスの国際園芸博覧会に向けて、日比谷アメニスグループ全体で取り組み、みどりと花の未来を提案していきます。

活動実施会社　株式会社日比谷アメニス
株式会社グリーバル

1 宇都宮大学圃場に設置した試験区設置の状況。
2 試験用培地として、木炭と黒土を均一になるよう混合している状況。

バイオ炭を用いた CO_2 固定効果と緑化樹木の生育効果の実証

活動時期　2022 年 8 月～ 2023 年 12 月現在継続中

活動場所　国立大学法人宇都宮大学（栃木県宇都宮市）

都市緑地には多様な役割があり、昨今では脱炭素社会及び循環型社会構築への貢献が求められています。そこで、バイオ炭（生物の活性化および環境の改善に効果のある炭化物）による CO_2 固定効果に着目しました。国土交通省「先駆的な緑化技術開発のための実証調査」の採択を受けて、バイオ炭を施用した植栽基盤を用い、造園樹木の生育試験を始めています。この活動は、都市緑化の社会的な役割をさらに推進することを目指すものです。

活動の目的
緑地からは剪定枝などのバイオマスが一定量毎年発生します。そこで、発生したバイオマスを、バイオ炭として都市緑化のために再び利用することは，1）土壌改良材として樹木の健全な生育環境の構築，2）発生した剪定枝の木質資源の有効活用，3）都市緑地における新たな CO_2 の固定先の創出に貢献できると考えられます。

取り組み・成果
植栽基盤（黒土およびマサ土）にバイオ炭を施用割合を変えて混合し，造園樹木の育種試験を宇都宮大学とのパートナーシップにおいて実施しています。得られた結果から，CO_2 固定効果と緑化樹木の生育効果の最適化を考察し，バイオ炭の緑地利用の有効性を見出すことができています。

今後の目標・課題
十分な実証期間がまだ取れていないため，試験区間の差をより明らかにする必要があります。そこで、生長期を含んだ継続試験を令和 5 年度も実施中です。また、バイオ炭の品質による影響の検証や、普及性のある手法とするため、現実的にバイオ炭を施用する場合の施工方法を想定した最適化を模索していきます。